



歴史が語る想いを守り、 未来へ受け継ぐ

愛媛資料ネット 代表

愛媛大学 教授
胡^{えべす}光 さん

愛媛資料ネットでは、歴史資料の救出・保全活動を行っています。大学の生徒やボランティア団体と協力し、次代へと日本の歴史を伝えています。

平成30年7月豪雨災害で水没した旧立間村に関する歴史資料の修復が完了し、3月23日に立間公民館で返還式が行われました。

旧立間村は、1955年に吉田町と合併するまで江戸時代の行政単位が残り、その間の文書が元村役場跡の立間公民館に残る全国的にも珍しい地区です。本来、日本の歴史資料は和紙で作られているため、長いもので1000年以上保存されているものもあります。しかし、旧立間村の歴史を記した膨大な資料の中には、戦時中に作られた紙を使用していたものもあり、薄くて質が悪く非常に破れやすいものでした。

メッセージをくれるようになり、県外や国外の人が修復に使用する新聞紙の作成などに協力してくれました。この繋がりがコロナ禍での作業を後押ししてくれました。

胡さんは、歴史資料が災害以外にも失われる危険性があり、その原因の1つに全国的に進む人口減少があると話します。「平常時でも家ごと資料が無くなる可能性がある時代。活動を通じて生まれる繋がりを大切にしながら、歴史を後世の一つでも多く残していきたい。」という想いを胸にこれからも活動を続けます。



修復は新聞紙を使って水分を吸いとる作業を繰り返し行うもので、人手と時間が必要です。普段はボランティアを募り、多いときは10人以上で作業を行います。コロナ禍で人数が制限されると思うように作業が進みませんでした。そんな中、愛媛資料ネットが平成30年7月豪雨災害のときに開設したSNSで生まれた繋がりがありました。SNS開設の目的は自分たちがまだ知らない被害にあった歴史資料の情報収集でしたが、愛媛資料ネットの活動を知った人がボランティアに参加したいと



百年以上の歴史がわかる大切な資料が守られました。